

ユニット名	島根大学 鐵道研究会
代表者	吉弘幹太
所属人数	36名
達成に資するSDGs目標	4 質の高い教育をみんなに 9 産業と技術革新の基盤をつくろう 11 住み続けられるまちづくりを 12 つくる責任つかう責任 17 パートナーシップで目標を達成しよう
活動概要	8月末 ・島根県邑智郡邑南町宇都井での合宿 ・トロッコ運航 ・三江線全線開通50周年記念事業出展 ・邑南町や雲南市の地域住民、来訪鉄道ファンとの交流 (以下、申請後の追記) 10月 ・島根大学鐵道研究会会誌 Re:DRAFT vol.1 刊行 ・湘風祭 出展 ・みんな集まれ！きすき駅フェス2025 出展 ・一畑電車 令和7年度総合事故対応訓練に参加 11月 ・inakaイルミ@おおなん2025 スタッフ参加 12月 ・島根大学鐵道研究会会誌 Re:DRAFT 木次線特集号 刊行 ・木次線まつり 出展 ・木次線シンポジウム パネルディスカッション参加 1月 ・出雲横田駅大しめ縄プロジェクト 参加(～3月) 2月 ・鉄道DAY in カラコロ工房 出展 3月 ・出雲横田駅 大しめ縄新調お披露目会(名称未定) 出展予定
主な連携先 (予定を含む)	特定非営利活動法人江の川鐵道、雲南市 政策企画部 交通政策室(木次線利活用推進協議会)、一畑電車株式会社、一般社団法人Expe(カラコロ工房)、大しめ縄の会
成果物の公表予定、 社会への波及効果	三江線全線開通50周年記念事業への出展・参加に伴う、鉄道分野への関心増大と研究増進(4)。邑南町の貴重な観光資源を用いた地域振興(9)。過疎地域の関係人口増加に伴う活性化(11)。トロッコ運行による三江線廃線跡の有効活用(12)。NPO法人江の川鐵道や宇都井地域住民、鉄道ファンとの交流など(17)。 (以下、申請後の追記) 木次線等の各種イベントへの出展による地域振興(11)。会誌刊行による会員知識の集積および伝播、記録(4)。事故訓練参加による事業者との協力および相互理解(9,12,17)。
活動報告書	緒言 本研究会は「鉄道の更なる発展を目指し、鉄道への理解を深める広報活動や地方鉄道の支援を行うこと」(島根大学鐵道研究会 会則 第3条より)を目的として活動している。本年度も、過年度に引き続き、地域鉄道の活性化や廃線跡資源の利活用、地域イベントへの参画などを通じ、地域社会と連携したSDGs推進活動を実施した。 主な活動として、JR木次線沿線地域でのイベント出展や鉄道イベントへの参加、一畑電車の事故対応訓練への協力、旧三江線廃線跡の利活用を目的としたトロッコ運行ボランティアへの参加などを行った。また、今年度の初めての取り組みとして、鐵道研究会会誌「Re:DRAFT」の第1号および木次線特集号の2冊を刊行し、鉄道や地域交通に関する研究成果や知見を広く発信した。 さらに、地域イベントや観光振興事業への参加を通じて地域住民や行政、鉄道事業者との連携を深め、地域交通を軸とした持続可能な地域社会の実現に向けた取り組みを行った。 本活動が資するSDGs目標 本活動は主に以下のSDGs目標の達成に寄与するものである。 目標4 質の高い教育をみんなに 鉄道に関する研究成果を会誌としてまとめることで、会員の知識の蓄積と共有を図るとともに、SNS(X)での広報活動も日常的に行うことで、鉄道文化や地域交通への理解を深める教育的活動を行った。 目標9 産業と技術革新の基盤をつくろう 鉄道事業者との交流や事故対応訓練への参加を通じて、交通インフラを支える事業者や自治体組織との協力関係を構築し、地域交通の理解促進と発展に寄与した。 目標11 住み続けられるまちづくりを 木次線沿線イベントや地域行事への参加、観光イベントへの出展などを通じて地域振興に貢献し、公共交通を軸とした持続可能な地域社会の形成に寄与した。 目標12 つくる責任つかう責任 旧三江線の廃線跡を活用したトロッコ運行ボランティアに参加し、既存インフラを活かした地域資源の有効活用に貢献した。 目標17 パートナーシップで目標を達成しよう 地域住民、行政機関、鉄道事業者、NPO法人、他大学鉄道サークルなど、多様な主体との連携を通じて活動を展開した。 長体系的な活動内容 (1)旧三江線廃線跡の活用と地域交流 島根県邑南町宇都井地区において、NPO法人江の川鐵道が実施するトロッコ運行のボランティア活動に参加した。夏季には合宿形式で活動を行い、運行補助やイベント企画を通じて地域住民や観光客との交流を深めた。また、三江線全線開通50周年記念事業に出展し、鉄道文化の発信と地域観光資源の活用に貢献した。 (2)地域鉄道イベントへの出展 雲南市で開催された「きすき駅フェス」や「木次線まつり」、松江市の「鉄道DAY in カラコロ工房」などのイベントに出展し、鉄道模型展示や鉄道文化の紹介を行った。これらの活動を通じて地域住民や来客を招きつづけてもたらした鉄道の魅力を伝え、地域交通への関心を高める取り組みを行った。 (3)鉄道事業者との協働 一畑電車株式会社が実施する総合事故対応訓練に乗客役として参加し、鉄道事業者と利用者双方の視点から安全確保の取り組みを学ぶ機会を得た。この活動により、鉄道事業者との連携を深めるとともに、公共交通の安全性や重要性について理解を深めた。 (4)活動成果の記録・紙面保存・頒布発信 鐵道研究会会誌「Re:DRAFT」を刊行し、鉄道や地域交通に関する研究成果をまとめた。各種イベントでの頒布の結果、現時点では第1号は約50部、木次線特集号は35部の販売実績となっている。特に木次線特集号では、沿線地域や鉄道の役割についての研究や考察を掲載し、地域交通の価値を広く発信した。 成果物の公表予定および社会への波及効果 本活動の成果は、会誌の刊行やイベント出展、メディア取材などを通じて広く社会へ発信された。本活動は三江線全線開通50周年記念事業では、ジオラマ展示やイベント参加を通じて鉄道文化への関心を高める機会を提供した。 また、旧三江線のトロッコ運行活動や地域イベントへの参加は、地域観光資源の活用や関係人口の増加につながり、過疎地域の活性化に寄与する効果が期待される。さらに、鉄道事業者や自治体との協働を通じて、地域交通の課題や可能性について理解を深める機会を創出し、将来的な地域交通の持続可能性向上に貢献する活動であるといえる。 なお、本年度の活動において、山陰中央新報・BSS・NHKに取材いただいている。マスメディアに取り上げられるようになったことは、我々の手で行う広報活動が実を結んだ結果であると考えており、我々の活動は情報発信なしには社会への効果波及も限定的である。今後とも注力していく所望である。